

地域みんな下福祉を考える

～誰もが安心して暮らせる地域づくり～

“そよ風事業”というのを聞いたことがありますか。

この事業は、平成26年に岡村自治会（瀬戸町）と社会福祉法人そてつ会が立ち上げたもので、地域が抱える福祉の課題を解決する手だてを考えるため、南組自治会（瀬戸町）、社会福祉法人更生会などと協働し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

今年度は、さらに理解の輪を広げるため、別府小学校と別府中学校の児童・生徒と交流を行いました。



別府中学校 3年生

（今年の主な活動内容）

スタート

①福祉の授業 （高齢者や障害者の理解）	6月28日	別府小学校6年生、福祉施設職員
	9月16日	別府中学校3年生、福祉施設職員
②福祉の授業 （『徘徊』に変わる名前を考える）	9月21日	別府中学校3年生、福祉施設職員

ステップ1

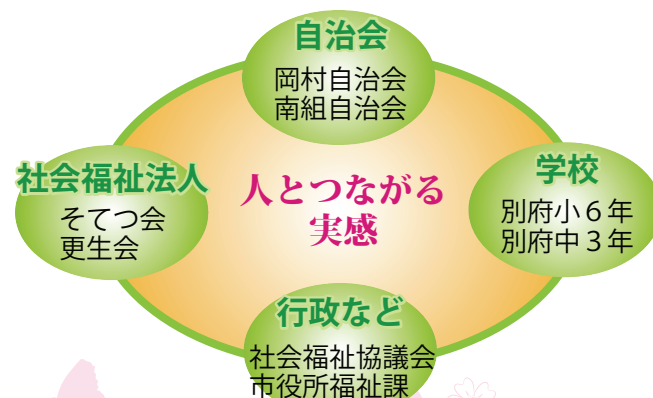
③施設見学・交流会	10月14日 20日	別府小学校6年生、別府中学校3年生
-----------	---------------	-------------------

ステップ2

④声かけ訓練	11月4日	別府小学校6年生、地域住民、福祉施設職員、社協、福祉課
	11月12日	別府中学校3年生、地域住民、福祉施設職員、社協、福祉課

別府小学校、別府中学校の児童・生徒が、自分たちが暮らしている「地域」と「福祉の現場」を学びの場として地域住民とともに体験し、地域が抱える課題について一人一人ができることに気づき、助け合う関係をつくれるよう活動しました。

高齢者や障害者に関する課題が多様化する地域において、性別や年齢、障害の有無にかかわらず誰もが出番と居場所のある地域を目指し、子どもたちの柔軟な発想や優しい心が地域福祉を盛り上げます。



今年の活動の様子

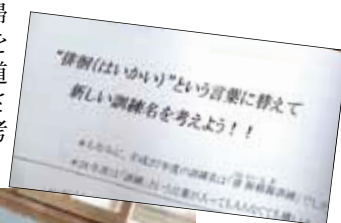
①福祉の授業 (高齢者や障害者の理解)

別府小学校と別府中学校の児童・生徒を対象に、社会福祉法人の福祉専門職の方々が先生となり高齢者と障害者について分かりやすく説明しました。現場で働く福祉のスタッフから教科書に載っていない福祉を学びました。



②福祉の授業 (『徘徊』に変わる名前を考える)

『徘徊』の意味は「目的もなくさまよい歩く様」です。買い物に行こうとして店が分からなくなったり帰り道が分からなくなったりと、目的をもって歩いている高齢者や障害者が道に迷ったときに声をかける訓練にふさわしい名前を、別府中学校の生徒が考えました。



『ハッピーサポートプロジェクト
優導模擬訓練』

「困った人を優しく見守り、まちのみんなが幸せになれるよう」そんな思いから生まれました。

③施設見学・交流会

別府小学校と別府中学校の児童・生徒が高齢者施設の「涼松」と障害者施設の「榎山学園」などを訪問し、利用者と交流をしました。障害者と農産物の加工をしたり、高齢者を部屋まで迎えに行ったりと、緊張しながらも自己紹介やゲームをして楽しく過ごしました。



④声かけ訓練

季節に合わない服を着た高齢者や道に迷って困っている障害者に扮した福祉施設の職員を2人の子どもが見守り、他の2人の子どもが近くにいる大人を呼びに行き「優導」しました。



参加してみて

- ・ブランコに乗って相手にあやしまれないように見守った。困った人の特徴を大人に伝えるのが難しかった。(小学生)
- ・道に迷っている人に出会い、近くの人を見つけても何をしてほしいのか的確に伝えるのが難しかった。近くに大人がいなかった。(中学生)
- ・笑顔で接して穏やかな声かけにつとめた。(30歳代)
- ・初めての体験でどう対応してよいか分からず不安だったが、地域の若い中学生が気にかけてくれて安心できる。(60歳代)
- ・手を添えて安心させた。訓練するのは大事。(60歳代)

今回の体験で、子どもたちは困っている人に気付く大切さ、気付いたら近くにいる大人に伝える勇気を学びました。

初めは、子どもたちに福祉について学んでほしいと企画されたものでしたが、困った人を優しく導いてくれる『ハッピーサポートプロジェクト優導模擬訓練』と命名する温かい心を持つ子どもたち。そんな子どもたちから助けを求められたときに、大人は応えられるでしょうか。地域に住むみんながより良い暮らしができるよう、この活動はまだまだ続きます。

Face book で事業の紹介をしています。 [facebook](#)

そよ風事業

検索